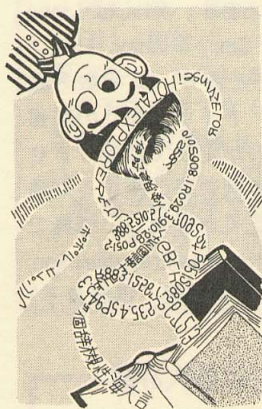


らい 来ぶらり 38

辞書とつきあう

次長 佐野 眞



毎日、何らかの必要があつて辞書や事典を引く。近ごろは人名事典、それも少々古めかしいのを使うので、それがきっかけで辞書も手放せない。引くたびに感心したり、がっかりしたりしながら、それは興味のつきない作業ではあるけれども、

辞書には「そうかなあ」という思いもついてまわる。とはいえ便利なものであるから、これに頼ってはいは、頭が運動不足になってしまうのではないかという人もいる。辞書はむしろ頭を運動させるきっかけを与えてくれるものだと思う。

ところで辞書の使いみちにもいろいろあつて、日常的に漢字の読みを調べたり、文章を書きながら失念した漢字を確かめたり、適切な意味で使っているかを確かめたりするほかに、結婚式の引き出物として古語辞典が選ばれたこともあり、会社の創立記念に配った例もある。某銀行からの注文で、10万部も作った例もあるという。他にとんでもない使いみちもあった。昨年9月の新聞にでていたのだが、京都刑務所に服役中の暴力団員に差し入れられた「国語辞典」の背表紙に、千円札が2枚隠されていたというのである。

英語圏で、学問的レベルの最初の辞典としては、ジョンソン博士の英語辞典が有名であ

る。かつて辞書は個人名を冠して呼ばれていたように、それ相当の人物が一人で大変な苦労を重ねて作ってきた。だから個性的でありジョンソン辞書は皮肉たっぷりな説明があつたりすることで、かえって人気があつた。

日本でも大槻文彦の『言海』（後の大言海）の記述は個性的なことで知られているが、これに対抗して作ったと思われる山田美妙の『日本大辞書』には、「…トノ義ニシタハドウイモノカ？」と他の辞書の解釈に対して意見を述べている項があつた。

辞書の編纂は、いまや個人の力では手に負えなくなって、組織的な力が必要になっている。新村出の名とともに知られる『広辞苑』も、8年ぶりに大改訂が終わつたが、これも今は組織の仕事である。個人の作品でなくても、主観的な記述を見ることが出来る辞書もある。項目ごとの執筆者に個性があり、それをどこまで活かすかということであるが、三省堂の『新明解国語辞典』にはこれがみられ、人気のあるゆえんとなっている。しかし初版から改訂版へ、その色合いは薄れてゆく。

話題の『広辞苑』だが、今回の改訂では削除した語はないという。辞書の改訂は語の入れ替えがあるほうが普通である。だから旧版でなければ出てこない語があつて、捨てられない。『広辞苑』の旧版は捨ててもよさそうだが、記述の書き換えがある。この記述が時代の背景を背負っていることを考えると、これも捨てられない。

ジョウ・ジャウ・デフ

— 『大漢和辞典』を使う —

仕事から『大漢和辞典』（諸橋轍次著 大修館書店刊）にはお世話になることが多い。数年前、史学科で『四庫全書』の影印本（上海古籍出版社刊）1500冊を購入したときも、収録されている約3500の書名と、延べ4000以上の著者やその他の人名の読みを調べるのは、この辞典がなければほとんど不可能だった。大部分は自宅での夜なべ仕事になったが、たまたま手元には縮写版しかなかったため、ふり仮名はルーペを使っても濁音と半濁音の判別ができず、子どもに読んでもらったりした。今は、大型判（A4判）の修訂版も出て、自分のような視力の衰えた人間にも随分見やすくなった。

また、旧仮名遣いにもだいたい悩まされた。たとえば新仮名遣いでジョウという音には、旧仮名ではジャウ（上・城など）、ジョウ（乗・蒸など）、ゼウ（饒・擾など）、チャウ（丈・場など）、チョウ（穠・濃など）、デウ（条・嫻など）、デフ（帖・畳など）と、七通りもの表記がある。しかし、これらも今は「語彙索引」が出て新仮名遣いで引けるようになり、大変便利になった。（整理課長 種田昭平）

役立ちます

— 百科事典の効用

知識の宝庫といわれ日本でも華々しく刊行合戦を繰り広げた百科事典。単に事柄の説明として利用するだけでなく、百科事典によっては、レポート作成の資料として十分に役立つ事があります。『日本大百科全書』の“すわる”の項目の最後に、参考文献として「日本人の坐り方に就いて」（史学雑誌31編8号）、「日本古来の姿勢」（姿勢研究2号）、「坐の文化論」（講談社）があがっていました。“正座”についての資料を探していたので、日本独特の文化である正座が定着するまでの変遷の詳細な説明のある本文と合わせ、大いに利用することが出来ました。ちなみに『世界大百科事典』のように“すわる”どころか“正座”という項目すらない事典もあります。新しい分野に強い事典、大項目主義、小項目主義の事典、百科事典の個性なのでしょうが使い比べてみると、とても違いがある事に気がつきます。（参考係 甲斐静子）

クロスワードパズルの辞典

（ドイツ）

クロスワードは日本に限らず、ドイツでも人気があるようです。そのドイツには、16万語以上収録したドイツ語の『クロスワードパズル辞典』があります。一般的なドイツのクロスワードはマス目の中に設問があり、文章でなく、名詞や形容詞のみ書き込まれていて、その語の同義語や、何を指しているのか（地名、人名等）を答える形になっています。辞典の見出し語はパズルに出て来る設問（＝語）がABC順、各見出し語に続いて答えが文字数の少ない方からABC順に並んでいます。例えば Liebe（＝Love）で引くと、3 Sex / 4 Amor, Eros / 5 Sexus / 9 Zuneigung とあり、文字数も数字で示されています。ドイツ人がこの辞書片手にパズルを解くのか定かではありませんが、ドイツ人の、事柄や語に関する知識や連想のあり方が発見できる楽しい辞典です。（Das Große Kreuzworträtsellexikon. Duden. 1990）（独文学科講師 保阪良子）

特集
・
辞書への招待

OED 英国が世界に誇る大辞典

世界で最大最良の英語辞典といわれる OED (The Oxford English Dictionary) は、その編纂方針「歴史的原理」に基づいて1150年以後の普通語すべてを集め、最古の用例を含む膨大な引用例文を採録しています。このため辞典の域を超えた、英語学全般にわたる知識のデータベースともいえます。

その OED がついにコンピュータ化されて、61年ぶりに第2版全20巻が完成、参考室にも並んでいます。本体と補遺4巻、追加語約5000の統合・改訂版で入力には120人で18ヶ月かかったそうです。既に第3版にも着手したとか。OED3 CD-ROM の登場もそう遠くはなさそうです。

初めて OED を使う人のためにはよき案内書『OED を読む』（永嶋大典著 大修館書店刊）があります。（洋書係 熊沢夕輝子）

1987年・第127号の発行以来休刊していた『経済学文献季報』が、今年3月、待望の復刊を果たしました。

『経済学文献季報』とは、1956年6月に経済資料協議会によって創刊された、経済

学・経営学・商学関係の二次資料です。国内で発行されている和文・欧文雑誌とディスカッションペーパーあわせて約900種を対象に採録が行われ、論文の著者・タイトル・誌名・巻号(年月)・掲載ページが分類順に並べられています。

冊子体だけでなく、1990年から学術情報センターと共同でデータベース化され、1991年8月には、NACSIS-IRの『経済学文献索引データベース』として、オンライン情報サービスも開始されました。

『経済学文献季報』



法経図書室では、経済資料協議会の会員として、担当者2名が『学習院大学経済論集』など合計7誌の採録にあっています。分厚い採録用マニュアルを片手に、論文ひとつひとつに目を通し、件名を選び、分類番号を付け、定められたフォーマット

どおりにワークシートに記入してでき上がり。もちろん、ワークシート原稿の提出締切日は“厳守”。締切日直前はいつも時間とのたたかいで、カレンダーとにらめっこの作業が続きます。そして、「もう間に合わないかな」とあきらめかけるころ、編集事務セン

ターからタイミングよく“締切日厳守”の御触書が送られてくるのです。

こうして復刊なった『経済学文献季報』を、ひとりでも多くの人に活用してほしいと思います。(法経図書室 赤塚康世)

ケガの功名

高校時代、私は来るべき受験に備えて、Z会の通信添削をやっていた。名前を聞いて、思わず身震いをする人もいます。

Z会の英語の、あの難解な問題を解くには、嫌でも辞書を引かなければならない。それこそ単語をひとつひとつ調べ、文法書・構文集等々を総動員して、何とか体裁を取り繕った。高2～3、浪人と3年間もやったのに、成績はあまり振わなかった。

語学の授業もなくなり、英語の辞書にも随分ご無沙汰しているが、辞書を引くという習慣はこの時から身についたらしい。史学を専攻するようになって、史料や古文書を読むのにも、面倒がらずに、楽しみながら辞書を引いているが、これは受験英語のたまもののような気がする。ケガの功名といったところか。(史学科4年 福井雅之)

ページをめくると思い出すのは……

『現代天文百科』(岩波書店刊)には、中学時代の私の貴重な思い出がある。

訳者である森本雅樹氏は、当時、東京天文台野辺山宇宙電波観測所の所長をされていた。ある時私は、先生と一緒に星を見る機会に恵まれた。草食動物の様な優しい目から、世界的な電波天文学者を想像するのは難しかった。「オリオン座の○○ってどの星ですか。」「○○?わからないなあ。」と困惑しながらも、星図を片手に先生は一生懸命探して下さった。わからない、と気軽に口にされたことに驚くと同時に、先生に一層の親しみを感ずる一コマであった。

事典の図や写真を眺めるだけで楽しいのは今も昔も変わらない。先生との接点として大切にしたい宝物の一つである。

(政治学科4年 竹内律子)

法経図書室で『沈黙の艦隊』(かわぐちかいじ著 講談社 1989-)を購入しています。現在、『講談社モーニング』に連載中ですが、既に13巻まで単行本化されました。混沌たる20世紀末が生んだ、試みのコミック! 話題作です。学術コミックの合間にどうぞ。(請求記号700-222)

ことしのニュースタッフ



十年一昔と言いますが、久しぶりに大学図書館に戻って参りました。まず、学内の建築ラッシュとコンピューターの羅列に驚き、正確には12年の歳月が確実に流れたことを身近に感じています。何が変わったと言って、仕事に取り組む時のものの考え方というか、本を整理する仕事を私は必ずカードを介して考えていたのですが、今のやり方では全く具体的な形でのカードが目の前に現れないのです。すべてコンピューターで考え、それによって仕事を強いられているわけで、実は少しばかりあわてています。加えて、厳しい現実として、「短大では云々」という言い訳をもうそろそろ止めようと、内心ひそかに決めているこのごろの私です。(和漢書係 霧島浩一)



今春、大学を卒業して、図書館に勤務している、ピッカピカの社会人1年生です。私は物事すべてを楽観的に考える傾向があります。悲観的に物事を考えてしまうと人生を楽しく生きていけないと思います。どんなことでも、楽観的に考えていくのが、自分の個性を引き出す最善の方法だと私は信じています。故に、図書館の仕事も、焦らず、気長にやっています。

私は、何十年たっても、自分の本質までも、社会に合わせることは絶対にしません。いつまでも、子供の頃の夢（レーサーになる）を追いかけていくつもりです。何歳になっても、挑戦していくつもりです。どうかよろしくお願いします。

(閲覧係 伊藤 修)

※ 他に中島亜子司書が、男子高等科図書室より整理課洋書係に着任しました。

NEWS

1991年度の図書館統計

開館日数	263日
入館者数	278,499名
館外貸出冊数	28,006冊
館内閲覧冊数	24,257冊

データベース入力件数(書誌)

1992.5.31 現在

図 書	和	25,209
	洋	51
雑 誌	和	4,610
	洋	2,844

お知らせ

○夏休みも図書館は開いています。

7月21日(火)から9月14日(月)まで、次のとおり利用できます。

平日 8:50~16:30

土曜日 休館(ただし9月5日・12日は12:00まで開館)

○夏休み長期貸出が始まります。

取扱期間:7月7日(火)~9月14日(月)

返却期限:9月18日(金)~9月28日(月)

貸出冊数:学部学生……………5冊まで

院生・論文貸出……………10冊まで

○「論文貸出」の登録受付中

論文・ゼミ論のテーマが決った4年生を対象に、通常の貸出とは別枠で「3冊・1ヶ月」の館外貸出をおこなう「論文貸出」の登録を受付中です。手続きは2階カウンターで。

来ぶらり No.38 1992年7月1日発行

発行責任者:片瀬 潔 編集委員:石田京子 田村節子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03(3986)0221